

母国語の使用と外国語の使用が文化的アイデンティティに与える影響

－ 在日中国人留学生の場合 －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
臨床心理学領域
戴 シンイ

近年、世界中の留学生数が急増している。青年期の留学は、留学生の文化的アイデンティティに非可逆的な効果をもつと言われる（斉藤，1983）。一方、Strauss（1959）は、アイデンティティについて様々な議論の中心に言語が位置していると述べた。そこで、本研究は、H大学の147名中国人留学生を対象に、母国語（中国語）の使用と外国語（日本語）の使用が文化的アイデンティティに与える影響を明らかにすることを目的とした。

研究1では、中国人留学生の文化的アイデンティティを日本語、中国語両言語で測定する尺度を作成した。作成された「中国人集団に対する意識」尺度（日本語版、中国語版）は「中国人集団への寄与」、「中国人集団の重要性」、「中国人の評価」の三つの下位尺度から構成されている。

研究2では、研究1で作成した尺度を用い質問紙調査を二回実施した。同じ被調査者日本語版と中国語版の得点を比較した結果、「中国人集団への寄与」、「中国人集団の重要性」について、前者は中国語版の得点が高く（中国人集団への寄与度が高い）、後者は日本語版が高い（中国人集団の重要性が高い）、という有意差が認められた。一方、「中国人の評価」についてはほぼ一致な結果となっていることがわかった。

研究3では、インタビュー調査を通して、研究2の結果に繋がる背景を探ることにした。研究2の三つの結果の背景として、それぞれ「日本語の不自由に由来する感情表現の阻害・自己有能感の低下」、「日本語の不自由から生じる無力感や不全感を補填する中国人集団のもつ『補填機能』」、「他集団の中国人に対する評価は中国人留学生が異文化集団の中で外国語を使って生活するという体験をする前に得られる可能性」というふうに考察された。また、インタビューでは、「使用する言語は母国との関係性を規定する」、「使用する言語は他者との関係性を規定し」という二点が示唆された。